

今なぜ名古屋副市長交代なのか

写真は中日新聞 4月25日夕刊1面。「名古屋副市長2人交代へ」とある。この時期になぜ交代なのか、記事を読んで正直いって驚いた。

任期途中で2人の副市長を同時に交代させるのは、何らかの「事情」があるのだろう。記事では「大規模国際展示場の整備や教育改革など、重点施策の推進に幹部人事を刷新する狙いがあるとみられるが、課題とされる市役所組織の掌握につながるかは不透明だ」と述べているが、どうも分からない。

2人の副市長のなかで、岩城正光氏は弁護士で、NPO法人「子どもの虐待防止ネットワーク(CAPNA)」理事長を務めるなど、児童虐待の専門家だ。中学生の虐待死事件の市の検証委員会にも加わり、児童虐待やいじめ施策に関わった経験を見込まれ、河村市長が「子どもや高齢者の悲鳴に耳を傾け、福祉施策を充実させるのに適任」と就任要請した経緯がある。そんな人をなぜ今やめさせるのか。納得がいかない。

岩城副市長は主に福祉分野を担当。記事によると、中学校にスクールカウンセラーを配置する「なごや子ども応援委員会」の運営方針、「陽子線がん」施設整備の一時凍結による施行者側への追加費用支払い協議をめぐり、市長との意見対立が目立っていた。2013年6月に就任し、岩城氏自身は来年6月までの任期を全うする考えだったという。

それにしても「異例人事」だ。児童虐待やいじめ対策は始まったばかりだ。この4月からは、障害者差別解消法が施行され、名古屋市でも遅まきながら取り組みが始まった。広報なごや2月「障害者差別解消法特集号」で、岩城副市長と障害者施策推進協議会の役員との座談会も掲載されていた。副市長の鋭い指摘に注目していた。これから障害者差別解消に向けて、名古屋市として本格的な取り組みが求められるなかで、なぜ「交代」なのか、大いに疑問である。

岩城副市長に初めてお会いしたのは、2年近く前の同僚・石川洋明さんの葬儀だった。石川さんとは、児童虐待などの問題で長い付き合いのようであった。その後、副市長は障がいを抱えた人たちにも深い理解があることを知った。そんな岩城さんが、なぜ任期途中で「くび」になるのか、いまだに解せない。副市長就任を要請したという河村市長にはっきりした説明を求めたい。



(2016年5月7日)